

SDGs による山口県のスポーツ観光講座と
ユニバーサルツーリズムの実践報告
Practical Report on Universal Tourism and
SDGs Sports Tourism Seminar in Yamaguchi Prefecture

西尾 建¹

橋本 芙奈², 木寺 航大³, 鳴尾 裕貴⁴

Tatsuru Nishio¹

Funa Hashimoto², Kodai Kidera³, Yuki Naruo⁴

¹経済学部准教授

²鳥取大学大学院連合農学研究科（山口大学所属）博士課程、

³山口大学創成科学研究科（農学）博士前期課程、⁴山口大学経済学研究科修士課程

¹Associate Professor, Department of Economics, Yamaguchi University.

²United Graduate School of Agricultural Sciences, Tottori University

(Yamaguchi University). ³Graduate School of Agriculture, Yamaguchi

University. ⁴Graduate School of Economics, Yamaguchi University.

要旨

2019年からスタートした山口学研究プロジェクト「SDGsによるスポーツ観光資源の開発」をベースとして、2020年に応募した観光庁の中核人材育成事業「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座」が採択され、山口大学で講座を開講した。講座は山口県内の自然資源やスポーツ資源を活用して、アフターコロナでの観光およびスポーツの推進を目指す人材を育成するものである。ここでは、2年間の観光庁講座とスタッフで編成したユニットチームで実施した「ユニバーサルツーリズムと車いす」の実践報告も交え報告する。

1. はじめに

山口県の観光は、これまで歴史を巡り、温泉など従来型の観光資源を中心に展開してきた。特に明治維新の中心的な舞台になった世界遺産も有する萩、美しい港を持つ下関、岩国錦帯橋や瑠璃光寺などを中心とした歴史遺産や秋吉台での自然観光、川棚温

泉、湯田温泉などが観光の中心となってきた。

しかしながら、新型コロナの感染拡大で、旅行者の行動や選好も変容し、ポストコロナでは、山口県においても従来型の観光に加えてアウトドア志向がより高まってくることが考えられる(西尾、2021)。

山口県は、隣県の福岡県や広島県のような都市型観光資源が少ないが、自然施設を多く訪れる傾向にある(観光庁、2021)。今後山口県では、豊富な自然資源やスポーツ資源などを活用した観光開発が重要になってくる。

2. 観光庁講座の実施と概要

このような背景のもと2020年「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座」が観光庁中核人材育成事業に採択され、2020年度、2021年度と2年間にわたって山口県内で実施することになった(観光庁、2020)。



(写真1) 開講式・田中副学長の講義の様子

2.1. 2020年の講座

2020年度講座では、「山口県の自然資源を活かしたアウトドア、アドベンチャーツーリズムやスポーツ、キャンプなどスポーツ観光という視点から、ポストコロナでの滞在型観光地への転換を推進した。SDGs達成を図りながら、観光を推進する人材の育成」を目的として実施した。講師は学内、学外からスポーツ観光を中心としたエキスパートを集めた。

表1 2020年度講座プログラム

11月3日(木) ポストコロナでのSDGsと山口県のスポーツ観光(山口大学高田キャンパス)	「SDGsと地域観光連携」講師:山口大学副学長 田中和広氏 「観光を取り巻く現状と今後の取組」講師:観光庁参事官(観光人材政策) 町田倫代氏 「地域でのSDGsへのチャレンジ」講師:山口大学 交遊連携担当副学長補佐 経済学部特命教授 藤本隆史氏
11月17日(木) ポストコロナでの地方スポーツ・体験観光とDMO(山口大学高田キャンパス)	「海外のスポーツ観光事例とSDGs」講師:山口大学 経済学部観光政策学専攻教授 西尾建夫氏 「ポストコロナでの地方スポーツ・体験観光とDMO」講師:公益財団法人日本交通公社 上原主任研究員 地域活性化委員 中野文彦氏 「ポストコロナでのSDGsの重要性」講師:山口大学 技術経営研究科特命教授 林裕子氏 「ワークショップと事業プランニングについて」講師:山口大学 経済学部専任講師 沢野村紀郎 「コンサルティング事業部主任研究員 八代拓氏
11月18日(木) 国内スポーツ観光の成り立ちとマーケティング(ホテルニューオナカ)	「山口県の文化とインバウンド」講師:山口大学 経済学部観光政策学専攻教授 藤本隆史氏 「新型コロナウイルスへの対策」講師:山口大学大学院 医学系研究科公衆衛生学・予防医学講座教授 田邊剛氏 「国内のスポーツ観光の成功事例とスポーツコミッション」講師:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構専務局長 中山哲郎氏 「スポーツ観光推進のマーケティング戦略」講師:アンビュ株式会社 観光戦略部観光プロデューサー 伊藤善史氏
11月23日(金)・24日(土) アドベンチャーツーリズムの潮流と地方観光(熊本市議会議事堂交流広場・ホテル福貴館・ポニーベイシーカセットセンター)	「ラグビーワールドカップ2019開催とスポーツ観光レガシー」講師:熊本市役所 市川氏、田中氏 「山口県の観光とアドベンチャーツーリズムの潮流」講師:一般社団法人アドベンチャーツーリズム協議会理事、JTB総合研究所主任研究員 山下真輝氏 「アウトドアツーリズムとエコツーリズム」講師:海洋ジャーナリスト・日本レクリエーションカンファレンス代表理事、(株)モンベルアドバイザー 西田正洋氏 「ポストコロナでのSDGsによる山口観光と航空会社の役割」講師:日本航空山口支店長 小林信也氏
11月24日(金) シーカヤック体験講座	講師:海洋ジャーナリスト・日本レクリエーションカンファレンス代表理事、(株)モンベルアドバイザー 西田正洋氏
11月25日(土) ポニーベイシーカセットセンター	講師:西野氏
11月26日(金)・27日(土) SDGs、山口県の自然環境とスポーツ観光(萩観光ホテル・笠山)	「山口の自然環境(地学編)とスポーツ観光」講師:山口大学 地域未来創生センター特命教授 藤田浩二氏 「里山とスポーツ観光」講師:公益財団法人日本交通公社 上原主任研究員地域活性化委員 中野文彦氏
グループワーク中間発表(6プラン)	
11月27日(土) 萩雪山エコツーリングツアー	講師:山口大学 地域未来創生センター特命教授 藤田浩二氏 萩ジオパーク 斎藤氏
11月28日(日) スポーツ観光と食、産業(熊野内ジャムズガーデン・ホテル&リゾートサンシャインサザンセット・笠山)	「食とマーケティングからスポーツ観光を考える」講師:熊野内ジャムズガーデン 松崎浩史氏 「SDGsの取り組みとワーケーションについて」講師:ホテル&リゾートサンシャインサザンセット 支配人 橋本孝一氏 「リサイクル資材を使った取り組み」講師:山口県観光スポーツ文化振興部推進課 瀧本尚也氏 「世界のトリアスロンと山口でのアウトドアの可能性」講師:成蹊大学法学部教授 横山志氏 「SDGsによる山口の循環農業とスポーツ観光」講師:山口大学 農学専攻教授 橋本尚也氏 「熊野内アルプスから観光を学ぶ(笠山)」講師:熊野内大島観光協会
11月29日(日) ポストコロナのスポーツと地域活性化。そのために求められる人材について考える(ホテルニューオナカ)	
グループワーク最終発表	
11月30日(月) 山口県内スポーツ観光と地域活性化	講師:山口県観光スポーツ文化振興部スポーツ推進課 弓崎久美氏 「ポストコロナのスポーツチームと観光」講師:山口銀行VINGUTS 監督 東祐三氏 岡田あずさ氏 「レノア山口と観光」講師:レノア山口観光施設館長 東田昌樹氏
12月1日(火) 山口県のSDGsによるスポーツ観光の可能性と人材育成について考える(山口大学高田キャンパス)	「講座を終えて」講師:山口大学 経済学部観光政策学専攻教授 西尾建夫氏 「地域観光における大学の役割」講師:山口大学副学長 田中和広氏 「課題総評と観光業界の持続的な取り組み」講師:山口県観光連盟専務理事 上田英夫氏
閉了式&表彰式	
12月2日(水) ポストコロナに向けた観光政策	講師:観光庁参事官(観光人材政策) 町田倫代氏 「スポーツ観光の潮流と地域観光」講師:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構専務局長・早稲田大学教授 原田孝彦氏
12月3日(木) 山口県でのスポーツ観光の可能性	講師:一般社団法人アドベンチャーツーリズム協議会専務理事・JTB総合研究所主任研究員 山下真輝氏

経済学部西尾建夫教授が全体コーディネーターとなり、元野村総研の経済学部八代拓准教授、山口県観光連盟の上田英夫専務理事、観光シンクタンクから公益財団法人日本交通公社の中野文彦氏、株式会社JTB総研の山下真輝氏をむかえてボードメンバーを構成し講座の企画、課題の設定などを行なった。

学内講師は、文理融合の講師編成を行ない、山口学研究センター長の田中和広副学長をはじめ、副センター長の脇田浩二特命教授、農学部の種市豊准教授、医学部の田邊剛教授、技術経営研究科の林裕子特命教授、経済学部からは、朝水宗彦教授、富本幾文特命教授が講座を担当した。

学外講師としては、観光庁町田倫代参事官、日本スポーツツーリズム推進機構(JSTA)会長で大阪体育大学の原田宗彦学長。アドバイザーボードの中野文彦氏、山下真輝氏、JSTA事務局長の中山哲郎氏、モンベルアドバイザーで長門市出身の冒険家内田正洋氏、日本航空小林信也山口支店長、成蹊大学の境広志教授に講師をお願いした。

講座では、スポーツ観光やSDGsに対する理解をはじめ、観光プロダクトのビジネスプラン作成方法やマーケティング技術を習得した。長門会場では、アドベンチャーツーリズム、萩会場では、ジオパークと自然環境理解、周防大島会場では、スポーツと食について全8回の講座を実施した。

2.2. 2020年講座のレビューと2021年の講座

表2 講義および課題で意識したSDGs項目(%)

SDGs17項目	講義	ビジネスプラン作成		
		全体	グループ	個人
SDGs17項目	全体	n=36	n=36	n=34
①貧困をなくそう	0.5	0.0	0.9	
②飢餓をゼロに	0.2	0.0	0.9	
③すべての人に健康と福祉を	8.1	16.7	8.4	
④質の高い教育をみんなに	7.2	5.6	3.7	
⑤ジェンダー平等を実現しよう	1.9	0.0	0.9	
⑥安全な水とトイレを世界中に	0.7	0.0	0.9	
⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに	1.4	0.0	1.9	
⑧働きがいも経済成長も	16.4	33.3	18.7	
⑨産業と技術革新の基盤をつくろう	3.5	5.6	5.6	
⑩人や平等をなくそう	0.5	0.0	2.8	
⑪住み続けられるまちづくりを	21.9	11.1	20.6	
⑫作る責任 使う責任	4.9	0.0	3.7	
⑬気候変動に具体的な対策を	1.9	0.0	2.8	
⑭海の豊かさを守ろう	7.8	5.6	5.6	
⑮陸の豊かさを守ろう	6.7	5.6	6.5	
⑯平和と公正をすべての人に	0.7	0.0	1.9	
⑰パートナーシップ目標を達成しよう	15.5	16.7	14.0	
	100.0	100.0	100.0	

本講座では、SDGs での達成をはかりながら観光を推進する人材の育成を目指しており、各講座およびプロジェクト作成に関して意識している SDGs 項目の調査もおこなっている。表2は2020年講座の講義とプロジェクト課題作成時に「意識した SDGs 項目」調査の結果である(表2)。

表3 2021年講座プログラム

<p>12月25日(水) アフターコロナでのスポーツ観光(新山口駅前KODIC新館ホール)</p> <p>「講座の概要」講師:山口大学 経済学部観光政策学科学科准教授 西尾建氏 「プロジェクトの説明とチーム編成」講師:山口大学 経済学部准教授 八代祐氏 グループワーク</p> <p>開講式「開講宣言」講師:山口大学 経済学部観光政策学科学科准教授 西尾建氏 講師:山口県観光連盟専務理事 上田英夫氏 「山口県の自然の魅力と観光庁講座による人材育成」講師:山口大学副学長 田中和広氏 「ニューノーマル時代の観光と人材育成」講師:観光庁参事官(国際関係・観光人材政策担当) 田沼エルガ氏 「ポストコロナでの地方観光」講師:日本総合研究所 主席研究員 藤谷浩介氏</p> <p>29月1日(水) 観光データとデジタルツアー(オンライン)</p> <p>「データからスポーツ観光を学ぶ」講師:山口大学 経済学部観光政策学科学科准教授 西尾建氏 「ビッグデータから見る山口県の観光」講師:山口県観光連盟専務理事 上田英夫氏 「心臓学とテキスト分析から観光を学ぶ」講師:追手門学院大学 経営学部教授 石森貴徳氏 「すぐに使える!Googleマップ活用セミナー」講師:山口大学大学院 創成科学研究科 大寺航大氏 「デジタルツアーのスポーツと観光への活用-衛星による地図ソフト、ブライダルマシンの活用など」 講師:山口県産業技術センター 藤本正史氏 講師:山口県産業技術センター 森信彰氏</p> <p>30月7日(水) ジオパークとユニバーサルツーリズムを学ぶ(秋吉台国際芸術村・秋吉台)</p> <p>「秋吉台でのスポーツ観光への取り組み」講師:美祿市観光商工部観光企画課 西山洋史氏 「山口県の自然とジオパークの取り組み」講師:山口大学地域未来センター特命教授 藤山浩二氏 「大自然はバリアブルだから、楽しい!」講師:合同会社SOU代表 中岡直希氏 「自然野での取り組み」講師:信州大学学術研究院総合人文学部 加藤彩乃氏 「障害者差別解消法とユニバーサルツーリズム」講師:IOE RESEARCH プログラムディレクター 小泉二郎氏 「山口大学での取り組み(LiNITライセンス講習会実施報告)」 講師:鳥取大学大学院 産食農学研究所(山口大学所属) 橋本美奈氏 講師:山口大学大学院 創成科学研究科 水谷航大氏 講師:山口大学大学院 経済学研究科 嶋尾希貴氏 体験型車椅子(HIPPOCampe)の運営</p> <p>30月18日(月)・19日(火) スポーツ観光の成功事例紹介と地域連携(西長門リゾート・神田小学校(鹿校))</p> <p>ワークショップ、グループワーク 講師:山口大学 経済学部観光政策学科学科准教授 西尾建氏 講師:山口大学 経済学部准教授 八代祐氏 「広域連携アウトドア観光の取り組み」講師:長門市役所経済観光部観光政策課 市川裕之氏 「スポーツ観光事例と広域連携について」講師:一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構専務理事 中山哲郎氏 グループワーク中間発表(4プラン) 「農校利用およびライフセービングクラブの取り組み」と農校見学 講師:海崎香 新名文博氏 グループワーク マリンスポーツ体験講座 講師:海崎香 新名文博氏</p> <p>30月4日(水) スポーツチームをまもつくりを学ぶ(福田フルーツパーク・周南市志津山駅前国営公園)</p> <p>「福田フルーツパークの活動」講師:福田フルーツパーク 代表取締役 福田龍一氏 グループワーク 「スポーツチームをまもつくり、観光にどのように活用するか」講師:大阪体育大学学長・日本スポーツツーリズム推進機構会長 原田宗彦氏 【特別企画】スポーツチームをまもつくり、観光にどのように活用するか</p> <p>30月25日(木) ニューノーマル時代のスポーツ観光(山口大学吉田キャンパス)</p> <p>プロジェクト最終発表会 審査結果発表、受賞修了式 アワード授与 山口大学副学長 田中和広氏 観光庁参事官(国際関係・観光人材政策担当) 田沼エルガ氏 【シンポジウム】ニューノーマル時代の山口県のスポーツ観光 「閉会のあいさつ」講師:山口大学副学長 田中和広氏 「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座を終えて」講師:山口大学 経済学部観光政策学科学科准教授 西尾建氏 「講座の振り返りと未来へ向けて」講師:本年度受講生代表 小川直希氏、赤木千香氏 「ニューノーマル時代の地方観光」講師:観光庁参事官(国際関係・観光人材政策担当) 田沼エルガ氏 パネルディスカッション「ニューノーマル時代の山口県スポーツ観光」</p>
--

講義およびプロジェクト課題作成時に意識した SDGs では、意識する項目で差が見られた。全体を通して、受講生が強く意識した項目は、SDGs-8「働きがいと経済成長」、SDGs-11「住み続けられるまちづくりを」、SDGs-17「パートナーシップ目標を達成しよう」であった。講座を通してパートナーシップを重視してスポーツ観光を発展させ、雇用を創出し経済成長につなげたいという結果になった。次に意識が強かった項目は、SDGs-3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs-14「海の豊かさを守ろう」、SDGs-4「質の高い教育をみんなに」、SDGs-15「陸の豊かさを知ろう」が続いた。「スポーツ観光」においては、雇用、経済成長に加えて、教育、健康、自然という面での格差是正に関心があることが本調査の結果から明らかになった。

2年目の2021年度は、SDGs 項目調査で意識の低

かった項目をプログラムに組み入れ、カバーできるようにテクノロジー(SDGs-9)、格差のないスポーツ観光(SDGs-10)をテーマに取り入れ、1年目取り組めていなかったスポーツチームのセッション(SDGs-17)を取り入れた(表3)。スポーツチームのセッションでは、受講生が山口県内のスポーツチームの取り組みを通してチームスポーツを理解するスピノフ企画(レノファ山口FC、YMGUTS、ながとブルーエンジェルス、ACT SAIKYO、ミネルバ宇部)も実施した。

2.3. 考えられたアイデア課題と講座のまとめ

2020年度各講座開催後に実施した振り返りから2020年度にカバーできなかったSDGs-10「人や国の不平等をなくそう」を中心にユニバーサルツーリズムを講座に組み込み観光地での共生モデルについてみんなで議論のセッションを講座に組み入れた。

表4 受講生が作成したグループプロジェクト一覧

プロジェクト名(2020年度)	SDGs 項目	主なアクティビティ
法人向けスポーツセラピープログラム@長門	③⑧⑩	法人向けヘルスツーリズム
キャンピングトレーラーでワーケーション&アドベンチャーツーリズム(企業)	⑧⑯⑰	キャンピングカーで企業のチームビルディング・企業
瀬戸内セーリング体験ブライダルフォト	③⑧⑭	瀬戸内海でのセーリング
映像に残す記録旅行	⑧⑨⑰	ドローンによる映像撮影旅行
YO-U(レノファで酔う。山口に酔う。)	⑧⑩⑰	観光ツアー、サッカー観戦
Go around やまぐち	③④⑧	歩く県内観光ツアー
プロジェクト名(2021年度)	SDGs 項目	主なアクティビティ
レノファ観戦つき社員旅行プラン〜諸君、遊びたま〜	⑧⑩⑰	サッカー観戦
世界一車椅子(HIPPOcampe)でアウトドアが楽しめる県にするプロジェクト	③⑧⑩	アウトドア車椅子普及事業
日本でここでしかできない!ホテルキー	無回答	ケイピング、ホテル事業
徳地まるごと村キャンプ〜農業と自然を	③⑧⑰	文化体験、自然体験

グループ最終課題発表では、アウトドア車椅子を取り入れた課題が最優秀課題に選出されたのをはじめ、SDGs を意識した魅力あるスポーツ観光プロジェクトが作成された。

講座では講義と並行して、山口県でのスポーツ観光プロジェクト(SDGs を組み込んだ観光商品もしくはプロモーション)を作成してもらい、専門家による評価を行った。提出課題はグループ10プロジェクト(表4)、個人40プロジェクトの合計50の魅力あるプロジェクトが提出された。



(写真2) 2021年度修了式の様子

3. ユニバーサルツーリズムの実践報告

2年目は、観光庁事務局大学院スタッフ（橋本、木寺、鳴尾）でユニバーサルツーリズムの実施ユニットを構成し、山口県の中核的な観光地である秋吉台・秋芳洞で実践を試みた。

ユニバーサルツーリズムおよびアクセサブルツーリズムに関する先行研究は、非常に少ない。その理由として、これらが近年出来た新しい概念であることが挙げられる。ユニバーサルツーリズム（アクセシブルツーリズム）とは、障害の有無、年齢に関係なく、より多くの人々が体験できる観光を提供することをいう（UNWTO, 2021）。これは、すべての人々が観光体験に参加し、楽しむことを目指す考え方である。世界的にSDGsへの関心が高まるなか重要性が増しており、主にヨーロッパで積極的に推進されている。しかしながら、日本ではその普及が遅れている現状にある。

本報告のケーススタディとなる秋吉台・秋芳洞の位置する美祢市では、「第2次美祢市観光振興計画」の取り組みが行われている。美祢市の観光客数は近年穏やかな減少傾向にあり、誘客の工夫が求められている。なかでも、今後はインバウンドの誘客促進に注力していきたい考えである（美祢市、2020）。これまで海外からの観光客として大きな割合を占めていた韓国は、2017年から伸び悩んでおり、台湾人観光客は2015年から6倍以上に増加している。

これらのことを背景に、東アジアだけでなく欧米豪地域も含めたインバウンドへの対応を強化していく必要があるとしている。そのためには、世界基準のユニバーサルツーリズムの考えに即した共生的なモデルが必要不可欠である。自然資源を活かしたユニバーサルツーリズムを進める場合、ハード面のバリアフリー化が困難となる。このことから、人の手やアイデア、道具を用いて合理的環境を整える、ユニバーサルフィールド（UF）が重要となる。信州大学では、この考えに基づき、アウトドア車いすの普及へ向けた取り組みを行っている。以下は、信州大学の協力のもと本講座で実施されたアウトドア車いすの実践報告である（信州大学、2021）。

山口県では、ユニバーサルツーリズムの観光地としてノウハウの蓄積がなかったので3つのステップ「①信州大学での中核人材育成事業によるステークホルダーに対する講習の受講(3.1)」 「②講座での実施と秋吉台、秋芳洞での実践(3.2)」 「③EXPOでのアウトドア車椅子の展示とシンポジウムによる討議(3.3)」で進めていった。

3.1. ユニバーサルツーリズムとアウトドア車いす講習

アウトドア車いす（HIPPOcampe）のライセンス

である UNITI の講習会に関して報告する。UNITI は、バリアフリー環境の整備が難しい自然環境下において、アウトドア用車いすを用い、車いすユーザーとその家族や友人達が一緒に大自然を安全に楽しむためのライセンスである。アウトドア車いすは水陸両用であることから、2種類の講習があり、海や湖での利用を想定したものと山岳での利用のためのものがある。今回は、山岳用の講習会ということで、2021年9月17日に山口大学で実施した。講師には、一般社団法人インクルーシブ野外教育研究所 上席技術指導官・主席研究員 小泉二郎氏、信州大学 学術研究院総合人間科学系 全学教育機構 健康科学教育部門 講師 加藤彩乃氏を招いた。本来は座学を行ったのち、実践学習を行うが、台風14号の接近に伴い、プログラムを一部変更しての開催となった。まず、2チームに分かれて、アウトドア車いすの組み立て・分解作業を体験後、共育の丘へ移動した。実際に自然のなかで使用する場合の安全確保や注意点等について、実技を通して学んだ。その後、インクルーシブ及びユニバーサル教育概論の講義を受けた。実技で学んだアウトドア車いすの活用法やユニバーサルツーリズムについて理解することが出来た。基本的にアウトドア車いすに限界はなく、インストラクターの技量次第では、どのような環境下でも使用可能である点について、国内外の事例から学習した。また、障害者差別解消法に伴い、民間事業者においても今後インクルーシブな対応が不可欠となる点を確認した。

最後に、講師と受講生との意見交換を行った。その際、車いすユーザーのアウトドアツーリズムの課題として、認知度の低さが挙げられた。アウトドア車いすのようなアウトドア車いすを用いたアクティビティの存在を知らない車いすユーザーが多いことから、今後は、アクティビティ内容の充実のみならず、情報発信にも注力する必要があるといえる。



（写真3）講習会実技の様子



(写真4) 講義の様子

3.2. 秋吉台&秋芳洞の実践報告

2021年10月7日の観光庁講座第3回において行われた、秋吉台でのアウトドア車いす利用の実証実験についても紹介したい。本実証実験は、合同会社SOU代表であり車いすユーザーの中岡亜希氏、IOE RESEARCH プログラムディレクター 小泉二郎氏、信州大学学術研究院総合人間科学系 加藤彩乃氏の協力のもと実施した。UNITI 講習を受けた受講生を中心にアウトドア車いすの組み立てを行った。その後、アウトドア車いすに乗った中岡氏は、受講生らとともに若竹山の山頂へ到達し、無理なく下山することが出来た。



(写真5) 若竹山山頂での受講生との記念写真



(写真6) アウトドア車いすで若竹山を下る様子

また、2021年10月8日に秋芳洞で行われた、アウトドア車いすの運用試験の成果もまとまる。これまでの秋芳洞では、車いすユーザーの入洞が可能となる範囲は限られており、入口から出口までを制覇

した例はなかった。本実証実験では、アウトドア車いすを用いることで、これまで不可能であった車いすユーザーの秋芳洞観光の可能性を検討した。

本実証実験は、上述した中岡氏らに加えて、山口大学大学院生2名も参加した。脇田特命教授（山口大学）と村瀬氏（秋吉台アドベンチャーツアーズ）の2名をガイドに、下りコースでの探検を行った。

入口を入ってすぐの階段は、横幅に余裕があり3名の補助があれば問題なく降りる事ができた。傾斜・段差（通常の階段程度）も搭乗者とインストラクターへの負担は少なかった。「マリア観音」付近の道は、秋芳洞で最も狭い通路であるが、なんとか通過することが出来た。「巖窟王」の横を通る階段は、先の状況を把握しながら反転する必要があるため、スムーズな移動を行うため、アウトドア車いすの先を持ち上げつつ方向を変えた。アウトドア車いすに搭乗することで、必然的に視線が上に向き、主要な生成物のみならず天井も観ることになる。そのため、洞窟の魅力をもっと楽しむことができた。巖窟王～黄金柱間にある人工の通路では、常に階段が濡れているため、インストラクターは足元に注意しなければならなかった。千畳敷～洞内富士までは長い階段や曲がりくねった通路となっているが、アウトドア車いすは安全に通ることができた。

結果として、車いすユーザーは、アウトドア車いすに乗ることで、通常の車いすでは入ることの出来ないエリアまで観光することが出来た。ただ、観光商品化にあたっては、リスク管理が重要となるため、アウトドア車いすを安全に扱うためのライセンスである UNITI の取得をはじめとした人材育成に尽力しなければならない。

今後、美祢市のみならず山口県全体の観光振興を進めるにあたり、アウトドア車いすの活用推進が新たな観光需要の創出に寄与すると考えられる。



(写真7) アウトドア車いすで秋芳洞をめぐる様子

3.3. きらら浜での展示とシンポジウムの開催

これらの実践で得られた成果は、山口きらら博記念公園で開催された「スポーツフィールドやまぐちフェスティバル（2021年10月23～24日）」にて一般の方への紹介を行った。

実際にアウトドア車いすを体験した障害のある子どもの感想には、「こんなに早い車いすに乗ったのは初めて。気持ちいい。」というものがあつた。また、健常者の男性からも、「いずれお世話になるから子供に押ししてほしい」との意見があつた。障害者の方の心身の健康維持の一端を担うのみならず、高齢化社会におけるアウトドアツーリズムにおいても利用の可能性を見出すことが出来た。



(写真8) 「スポーツフィールドやまぐちフェスティバル」での展示の様子



(写真9) アウトドア車いすを体験している様子

また、2021年10月25日には、信州大学と共催で「障害者差別解消法と山口県のスポーツツーリズムについて考える」シンポジウムを挙g行した。障害者におけるアウトドアツーリズムの重要性や観光庁講座の学生スタッフが実際にアウトドア車いすを使ってみた感想などを報告した。パネルディスカッションでは、ヨーロッパでの先進事例、海を含めた自然でのアウトドア車いすの運用と自治体の支援方法など、ユニバーサルツーリズムの可能性について幅広く議論した。



(写真10) 「障害者差別解消法と山口県のスポーツツーリズムについて考える」シンポジウムの様子

4. まとめ

本報告では、山口学研究をベースに獲得した観光庁中核人材育成事業の外部資金で開講した講座「SDGsによる山口県のスポーツ観光講座」と講座スタッフの大学院生（橋本英奈、木寺航大、鳴尾裕貴）で構成したユニットで「ユニバーサルツーリズム」に関する実践について報告した。

また本プロジェクトでは、学术界やコミュニティへの紹介も行った。学術的貢献では、7月に開催された観光学術学会では、講座講師でテーマセッション「SDGsから観光を考える」を開催した。西尾建「観光講座とSDGs」、脇田浩二特命教授「ジオパークとスポーツ観光」、朝水宗彦教授「インバウンド観光とSDGs」、種市豊教授「地域循環型経済と地域観光の関係性—農産物と観光に焦点をあてて—」に加えて講座講師で追手門学院大学の石盛真徳教授「トレイルランニングと地域観光—心理学とSDGsから考える」の発表を行った。

本年度は、新型コロナ感染拡大も収まってきたので、ンポジウムやイベントを実施してコミュニティへのスポーツ観光の紹介などの普及活動も積極的に実施した。

表5 講座で実施シンポジウムとイベント一覧

イベント名	会場
美祿市秋芳中学で国際交流イベント	美祿市
きらら浜アウトドア車いす展示	山口市
山口大学・信州大学共催『障害者差別解消法と山口県のスポーツツーリズムについて考える』	山口大学
地域施設とスポーツ	長門市
「スポーツチームとまちづくりを考える」	周南市
維新スタジアムでのスポーツイベントプロモーション	山口市
修了式・ニューノーマル時代のスポーツ観光	山口大学

またシンポジウムや講座の様子は、メディア（中国新聞、KRY山口放送、山口朝日放送、NHK）でも多く取り上げられた。



(写真 11) NHK にも取り上げられたシンポジウムでのパネルディスカッションの様子

今後も山口学研究を活用しアフターコロナでのスポーツ観光の振興と SDGs にもとづき、格差なく参加できる共生モデルの構築を目指して研究および活動を進めていきたい。

謝辞

この研究は、山口学研究プロジェクトのサポートがあり進展しました。この場をかりて御礼申し上げます。

【引用・参考文献】

日本語文献

観光庁, 2021, 「共通基準による観光入込客統計」, 『都道府県別観光地点、行祭事、イベント数』(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoutoukei/irikomi.html>

観光庁, 2020, 「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

https://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06_000255.html

信州大学, 2018, 「産学連携による人材育成「車いすで、山あそび。」」(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

<https://www.shinshu-u.ac.jp/zukan/cooperation/post-20.html>

西尾建, 脇田浩二, 朝水宗彦, ペルラキディーネシユ, 種市豊, 橋本英奈, 石盛真徳, 2021, 「テーマセッション-SDGs から観光を考える」, 観光学会(2021.7.4 オンライン開催)

西尾建, 2021, 「地域におけるアウトドアスポーツ観光マーケティングー スポーツ観光に関する意識調査から」, 日本国際観光学会全国大会(2021.10.23 オンライン開催)

美祢市, 2020, 「第 2 次美祢市観光振興計画」(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

<https://www2.city.mine.lg.jp/material/files/group/18/k>

[eikaku1.pdf](#)

山口県, 「山口県観光客動態調査」(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16200/doutai/doutaityousa.html>

山口大学, 2021, 「山口大学・信州大学共催シンポジウム『障害者差別解消法と山口県のスポーツツーリズムについて考える』を開催しました」(閲覧 2021 年 11 月 29 日)

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/yamaguchigaku/latest_news/_9479.html

英語文献

UNWTO, 2021. (閲覧 2021 年 11 月 29 日)

<https://www.unwto.org/accessibility>

Yamaguchi University, 2021. (閲覧 2021 年 11 月 29 日)

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/english/about/news/_9292/_9477.html